

登校されたすべての学友諸君！

我々は25日の文学生大会に於いて正社的な多数をもつて本館封鎖という更なる斗争形態のエスカレートを本らとて行つた。そしてその場ですぐさま斗争委員会を結成し、兵舎にバリケードを構築していくのだ。この本館封鎖の意味するものは、まさに我々の現在の大学当局の高辯勢に示されるとこらの筑波移転運動の決闘書きを通して「激しい国際競争に耐え抜き、本らぬいいくに志る在洋力を備えた國家」の教育白書をつくるためにの「人材能力開拓」に示されるよう、現段階の日本流・日本式の成長に見合った形での教育政策の教育大における表れと捉えることである。こうした政府・文部省の文教政策に対し、大學当局は「大學の自治尊重」という立て前からして「行政幹部からの干涉」に一定程度の反撃を示しながらも「総合大学」としての発展」という趣向から筑波移転を積極的に推進せんとしているのである。「総合大学としての発展」なるイニオロギーそのものが自らの物質的基礎・教育研究者・國家公職員としての地位から生起しているということには全く無自覚なマナー、スルヨアミーの「發展」なる志篤のイニオロギーに再版してしまつてゐるのである。どうして学校当局であるか故に、我々学の利益に無く敵対的教育の帝國主義的再編を実質的にねづけねとして我々の限前に立たし、極く有攻勢の裏付けに立つてござこりるのだ。我々がこの闘争に技術として来てはダメトライキギ斗争に立ちあわらず、以然として高姿勢を保ち続けてきているのだ。本館封鎖は二度した彼らを燃せしめ、昨年のストライキギ斗争の敗北以後度々まで進められてしまつてゐる筑波移転運動と我々のこの屈辱的暴力關係を大きく転換させ、筑波移転運動は、或はテ学生ストライキの突飛化にしてあると考へる。しかしながら本館封鎖の逃げ、電源を切る二度の妨害等々をむしゃまに生じた。更に本日にも、二の間文教振興会をしてきた形で、学生と強制的に再編し、本館封鎖があざかも何も生み出していくいかのようか、或は意味がないかのようアマゴギトを流したり、或はテ学生ストライキを主張しながら、我々の戦争的おストライキギ斗争への破壊運動をしてくることは予想できる。二度した突然した突飛化を死守していける戦列に対する様々大切に縮れを断つて粉砕し、最後まで総監査計上白紙撤回・対評議会回交を実現するまで戦わなければならぬ。

しなしながら現在我々の斗争を指導している斗争委員事務局内多設派・構改派不諸君の跡継ぎの復讐を大々しくつかえしらるものだろうか。昨日の旗葉の方針部分に示されるよう、彼等は我々の本館封鎖を「大学自治の目變的・主体の登場」として位置付けてゐる。そこにおいては現在の我々の斗争の脆弱性・現在の屈辱的暴力關係を如何にして転換し、我々の絶波移転阻止斗争を一步進めていくのかというよりはむしろ

本館封鎖とい自身が素晴らしいことであるかのよう
に美化してしまつてゐる。そしてそうしたことに基
づきつつ戦術アップした現局面の手詮まりの打開を
「自主講座」等に求めているのだが、「大学の自治」
論を始めることによって斗争の焦燥を抜けさせてし
まうのである。いや逆にそうして「理論的變化」を
実践的課題である筑波移転を如何に阻止してやくの
かという問題を、「大学の自治」論へと模すべりさ

こにすつて、さういふアリオドを打つて、いつで
ある。我々がつした斗争委事務局内
采諸君の筑波移転、斗争の「大学の自治」
の歪曲をのりこえて最後まで斗い抜こうでは
か。調査費計上をあくまでも我々の実力をも
坂回させ、筑波移転阻止斗争の輝しい一歩
をやり切らへこうではなか。
我々の実力をもつて斗わん！

★ 調査費計上阻止！

★評議会団交をかちどるぞ！

★筑波移転阻止！

★マスター・プラン委員会即時解散！

★6・10決定白紙撤回！

★教育の帝國主義的再編反対！

★「戦後民主教育擁護」運動をのりこえどあら！

★本館バリケードを守り抜くぞ！

緊急・臨時評議会開かる。直ちに抗議行動を起し！
昨日

十一時に抗議集会を開け！